

## 事例 6 高知県中土佐町

人 口	7,513 人
高齢者数	2,274 人
高齢化率	30.27%
担当部署	福祉保健課

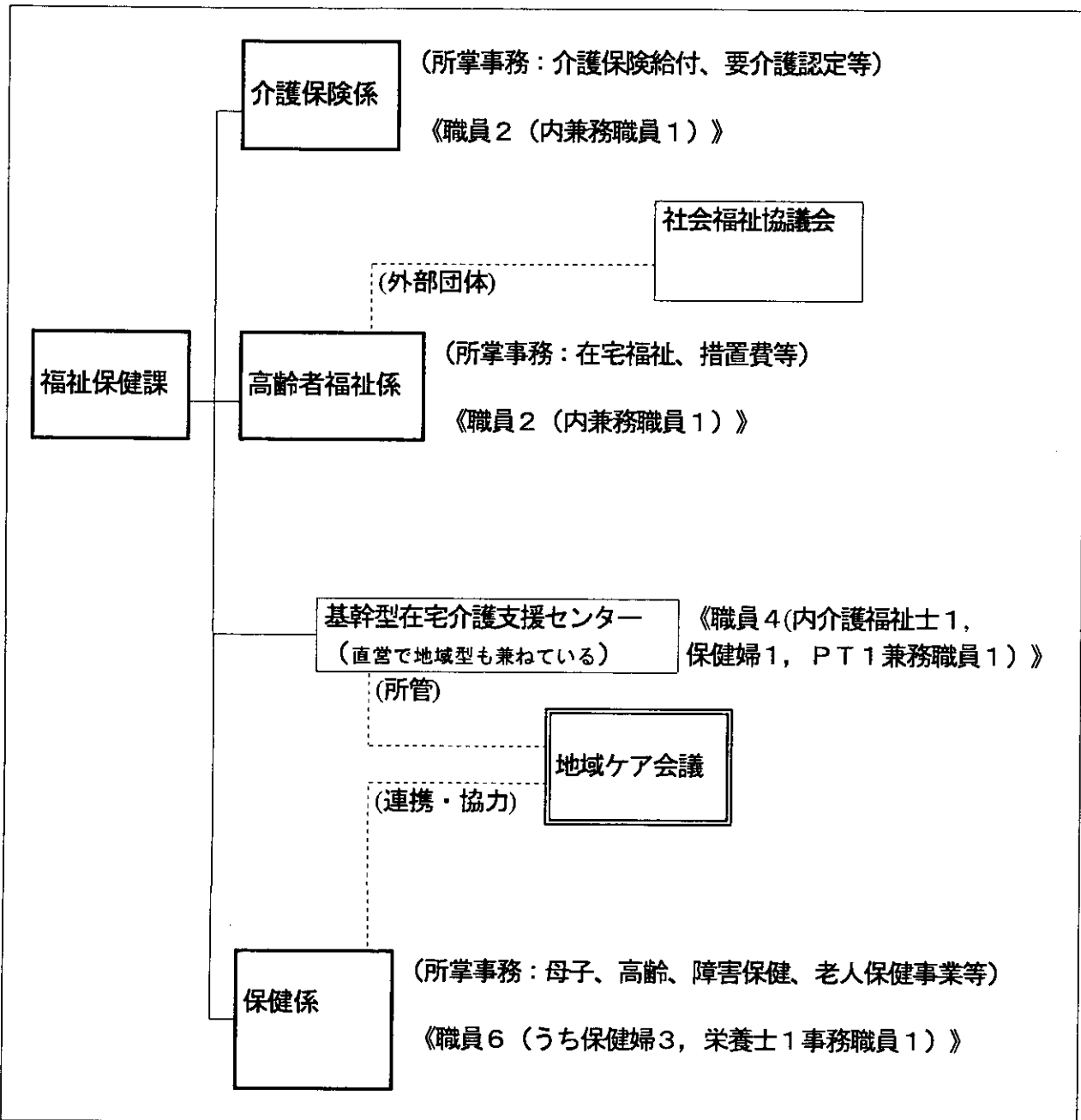
# 1. 市町村の概況

市町村の沿革概要	中土佐町は県都高知市より西に約50K、高知県のほぼ中央にあり古くから鯉の一本釣りが盛んで漁業、農業を中心とした町である。近年では、「鯉乃国」をコンセプトに交流の町づくりにも取り組んでいる。									
	人口	7,513人			高齢者数(高齢化率)			2,274人(30.26%)		
世帯数	65歳未満の者のみの世帯			65歳以上の者のいる世帯						
	2,116世帯			単独世帯	65歳以上夫婦のみの世帯			その他		
要介護認定(申請)者数	申請中	非該当	要支援	要介護1	2	3	4	5	合計	
			40	96	54	23	43	46	302	
社会資源状況	指定居宅サービス事業所(か所数)		訪問看護(2)	訪問介護(1)	通所介護(1)					
			通所リハ(1)	短期入所系(1)	その他( )					
	指定居宅介護支援事業所(か所数)		1ヶ所							
	保健センター 在宅介護支援センター(か所数)		1ヶ所 1ヶ所 (本町の場合は福祉保健課内に保健、福祉、介護保険、在宅介護支援センターがある。)  ※保健福祉センターなど、保健・福祉が一体となった施設があれば、記入して下さい。							
介護予防事業の拠点となりうる場(か所数)(公的施設以外も含む)		介護予防拠点施設 11ヶ所								
介護予防事業の担い手となりうる組織・団体(組織・団体数・人員数)		中土佐町食生活改善推進協議会								

(平成24年)

※データについては、できるだけ直近のものをお願いします。

## 2. 市町村の高齢者保健福祉行政の組織図



- ※1 職員配置状況や所掌事務等についてもご記入願います。
- ※2 市町村直轄以外の在宅介護支援センター等についても組織図に書き込んでください。
- ※3 地域ケア会議等についても組織図に書き込んでください。

### 3. 「介護予防事業」を企画する前の状況について

質 問 項 目	回 答 欄
<p>(問1) 「介護予防事業」に関連(類似)する事業がありましたか?</p>	<p>(○) 関連(類似)事業があった。→問2～問4へ ( ) 関連(類似)事業はなかった →問5へ</p>
<p>(問2) 実施していた事業は、どのような根拠に基づき、どの部局が所管していた事業ですか? また、その事業内容についてもご記入下さい。</p> <p>※既存資料で、事業内容等わかるものがあれば添付して下さい。</p>	<p>記入項目例：事業実施の根拠(国庫補助事業、 県単独助成事業)、 所管部局、 事業内容(事業名、事業目的、 対象者、実施回数、スタッフ等)</p> <p>(1) B型機能訓練事業(国庫補助事業(保健事業)) (2) 所管部局 福祉保健課 (3) 事業内容 ①事業名 「はつらつ教室」 ②事業目的 高齢者の健康並びに生きがいづくり ③対象者 65歳以上の元気、虚弱高齢者 ④実施回数 月1回 ⑤スタッフ 町の保健婦、PT、栄養士</p>
<p>(問3) 上記事業の効果測定(評価)を行いましたか?</p>	<p>( ) 行った (○) 行っていない (具体的方法)</p>

### 3. 「介護予防事業」を企画する前の状況について

質 問 項 目	回 答 欄
<p>(問4) 従来 of 事業を「介護予防事業」という形で見直したり、また新たな施策を企画することになった経緯について下記のような点を含めて記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中心となった部局はどこか？</li> <li>・ 何がきっかけとなり、どのような判断をしたのか？</li> </ul>	<p>(1) 福祉保健課が中心となって見直しをすすめた。  (2) 平成10年、11年とB型機能訓練事業「はつらつ教室」を行ない、一定の成果を取めた反面、保健婦、PT、栄養士主導の運営となり、出席確認、昼食の段取り、送迎まで役場スタッフで行なっていた。  (3) このような運営方法では、高齢者の自立支援につながらないという反省に立ち、もう一度参加者、スタッフ、課内全体で話し合いを重ねた。  (4) この結果、自立支援の立場に立ち、取り組みを再構築することとする。  (5) 平成12年4月より「鯉乃国の元気塾」がスタートする。運営の方法を次のとおりとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 「元気塾」の開催場所は歩いていける場所とし、これまでの「はつらつ教室」の5ヶ所から10ヶ所とする。</li> <li>② 塾生、塾長の意向に基づいた塾の運営とする。</li> <li>③ 運営スタッフとして有償ボランティアを雇用する。</li> <li>④ 保健婦、PT、栄養士は黒子となり、健康づくり、生きがいづくりにかかわることとする。</li> </ol>
<p>(問5)  (問1)で、関連(類似)事業がなかったと答えた市町村にお聞きします。  今般、「介護予防事業」に取り組もうとしたきっかけは何ですか？</p>	

#### 4. 「介護予防事業」の企画立案体制について

質 問 項 目	回 答 欄
<p>(問1)</p> <p>「介護予防事業」の企画立案体制について下記のような点を含めて記入して下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どのような場を利用し、どのような機関・団体等と協議したのか？</li> <li>・学識経験者や現場の担い手などの意見をどのように採り入れたか？</li> <li>・高齢者やその家族、地域住民等の参加する機会があったのか？</li> <li>・どの部局が中心となって企画し、他の部局との協力体制は、どうであったのか？</li> </ul>	<p>(1) 福祉保健課が中心となり、(福祉保健課には、保健、福祉、介護保険、在宅介護支援センターの機能がある) 課内で十分な話し合いを行ない、これまでの参加者の意見も聞きながら企画立案を行ってきた。</p> <p>(1) これまで「はつらつ教室」に参加していた高齢者などの意見、保健婦などの健康相談、家庭訪問における高齢者の声、家族の声を聞いた。</p> <p>(1) 福祉保健課が中心となった。</p>
<p>(問2)</p> <p>「介護予防事業」を企画する際、下記の様な検討事項があったと思います。</p> <p>貴市町村での検討事項と検討内容、その結果について記入して下さい。</p> <p>(検討事項例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ニーズをどのように把握するか？ (ニーズ把握の方法)</li> <li>・事業対象者の選定方法はどうか？</li> <li>・事業に従事する人材をどのように確保するか？</li> <li>・既存の設備の利用が可能か？</li> <li>・新たな設備整備が必要か？</li> <li>・どの部局の事業予算をどのように確保するか？</li> </ul>	<p>(1) ニーズの把握については、これまでの「はつらつ教室参加者の声並びに保健婦等のかかわりのの中で把握してきた要望を整理した。</p> <p>(2) 既存の町内各地区の集会所の利用を図るとともに、介護予防拠点整備事業の導入により、積極的に施設整備をおこなった。</p>

## 5. 「介護予防事業」の実施について

質 問 項 目	回 答 欄
<p>(問1)</p> <p>企画した「介護予防事業」の内容について記入して下さい。            ※事業の実施要綱、事業概要があれば添付して下さい。</p>	<p>記入項目例：事業名、事業目的、対象者、事業内容、開始時期、実施回数（週、月）、実施体制（スタッフ、研修）、事業予算・補助金、事業所管課、他課との連携（協力）体制 等</p> <p>(1) 事業名 生きがい活動通所事業 「鯉乃国の元気塾」</p> <p>(2) 事業目的            高齢者の主体性、自発性を尊重しながら健康と生きがいづくりのすすめ、自立支援をおこなう。</p> <p>(3) 対象者            65歳以上の高齢者</p> <p>(4) 事業内容            ①健康づくり            ②生きがいづくりを行なっている。            平成13年度は活動のテーマを「交流」と決め            ア・塾間交流            イ・異年齢交流（小学生、乳幼児）            ウ・国際交流            エ・大交流会            オ・精神障害者との交流            カ・「じい、ばあの知恵袋集」の活動を実施している。</p> <p>(5) 開始時期 平成12年4月～</p> <p>(6) 実施回数 月2回</p> <p>(7) 実施体制            スタッフは有償ボランティアで、研修は年に数回実施。</p> <p>(8) 事業予算            平成12年度 2,622千円 補助金1,966千円            平成13年度 2,928千円 補助金2,196千円</p> <p>(9) 所管課 福祉保健課</p> <p>(10) 他課との連携            平成13年度より教育委員会との連携をおこなっている。</p>
<p>(問2)</p> <p>住民に対して、どのように事業を周知しましたか？</p> <p>※周知するための広報資料の現物の写しなどがあれば添付して下さい。</p>	<p>(1) 住民に対しては町の広報、町内全戸配布のチラシなどにより周知した。</p>

5. 「介護予防事業」の実施について

質 問 項 目	回 答 欄
<p>(問3)</p> <p>「介護予防事業」の実施状況(実績)について記入して下さい。</p> <p>※貴市町村での実施状況(実績)をまとめた資料があれば添付してください。</p>	<p>記入項目例：事業名、事業費 年間実施回数 年間利用者数(実人数、延べ人数)</p> <p>※1年未満の事業の実施回数、利用者数については、実施期間内での実績を記入して下さい。</p> <p>平成12年度実績</p> <p>(1) 事業名 生きがい活動通所事業 「鯉乃国の元気塾」  (2) 事業費 2,622千円  (3) 年間実施回数 10ヶ所×24回=240回  (4) 年間利用者者  ①実人数 238人  ②延べ人数 2,690人</p>
<p>(問4)</p> <p>現在実施している「介護予防事業」の実施状況を見て、うまくいっていると感じられるのはどのような点ですか？</p>	<p>(1) 塾生(参加者)主体の運営方法に切り替えること、交流活動の実施などにより、高齢者1人1人の役割ができ、結果として自立支援につながってきている。</p>



## 5. 「介護予防事業」の実施について

質 問 項 目	回 答 欄
<p>(問5)</p> <p>うまく事業をすすめるために工夫している点などがあれば記入してください</p>	<p>(1) 塾生、塾長、有償ボランティア、役場福祉保健課（保健婦、PT、栄養士など）のそれぞれの役割分担をきめすすめてきたこと。</p>
<p>(問6)</p> <p>今後、課題と感じている点があれば、それについても記入してください。</p>	<p>1. 支援側の課題</p> <p>(1) 垣根を越え合うこと。高齢保健と母子保健、障害保健など保健間の垣根を越えた連携、そして、高齢、母子、障害者福祉、との連携、高齢者教育などとの相互の垣根を越えた支援策をどう進めるかが大きな課題である。</p> <p>そのため共通認識を深めることが重要である。</p> <p>(2) かかわるスタッフの資質の向上。</p> <p>(3) 「元気塾」を地域の核に。</p> <p>2. 塾生側の課題</p> <p>(1) 「楽しませてくれる」「何かしてくれる」という意識から、出来ることは自分でやる。そのことが生きがい、介護予防、自立へとつながる。</p>
<p>(問7)</p> <p>現時点で課題と感じている点に対し、考えられる対応策等あれば記入してください。</p>	<p>(1) 塾での1人1人のできる役割をこれからも実行していく。</p> <p>(2) 塾長会議、スタッフ会議の開催</p> <p>(3) 福祉保健課課内会議（保健、福祉、介護保険、在宅介護支援センター）の開催</p>

## 6. 「介護予防事業」の評価について

※行政が主体となって実施する（直轄・委託）保健・福祉事業に対する評価について伺います。

質 問 項 目	回 答 欄
<p>(問1)</p> <p>「事業ごとの評価」について伺います。</p> <p>①各事業メニューごとに評価を行っていますか？</p> <hr/> <p>②具体的な評価方法について記入して下さい。 (評価指標、評価時期、評価者等)</p> <p>※「事業ごとの評価」を行っている評価の資料があれば、添付して下さい。</p>	<p>( ) 行っている。→②へ</p> <p>(○) 行っていない。</p>
<p>(問2)</p> <p>「介護予防事業全体の評価」について伺います。</p> <p>①介護予防事業全体としての費用対効果をどのように評価していますか？ また、今後どのように評価したいと考えますか？</p> <p>②各種の介護予防事業関連施策における定量的あるいは定性的な評価指標などがあれば記入して下さい。</p>	<p>(1) 介護保険が始まって丸2年が経過されようとしているが、高齢者の自立支援、生きがい対策を考えた時、今後介護予防事業の果たす役割は大きなものがある。本町においての高齢者の「鯉乃国の元気塾」はまだ始まって2年であるが着実に自立と介護予防につながってきている。</p> <p>この事は、高齢者に対する医療費、介護保険費用の減につながってくるものと思われる。</p> <p>今後については、「元気塾」の評価事業を検討していきたい。</p>

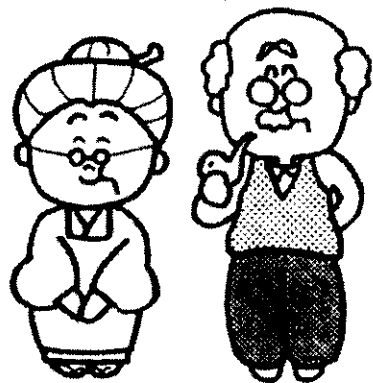
来年4月より町内10ヶ所の集会所等で高齢者の生きがいづくり教室が始まります。

○対象者 中土佐町にお住まいの**65才**以上の方

開催場所・定員

開催場所(予定)	定員
久礼老人憩いの家	20人
久礼浦分高齢者コミュニティーセンター	30人
長沢集会所	30人
大北集会所	20人
中大坂集会場	20人
鎌田老人集会所	30人
笹場集会所	15人
上ノ加江老人憩いの家	45人
小矢井賀集会所	10人
矢井賀高齢者コミュニティーセンター	20人

※参加希望者は申し込み書を回覧致しますので12月24日までに役場福祉保健課または支所まで申し込んで下さい。



月一回の教室を運営してくれるスタッフを募集しています。

- 三級ヘルパーの資格を持っている方
- 地域でボランティア活動をされている方
- 個人でも、グループでもかまいません。

福祉保健課までご連絡下さい。

教室  
スタッフ  
募集

高齢者の生きがい教室  
教室生募集！  
来年四月よりはじまります。

お問い合わせ：役場福祉保健課 電話52-2211(代表) (内線55・56)

# 頭と心と体(やま)

来々年4月から

おま人も来いや

元気塾

これまで、高齢者の健康と生きがいづくりのために、町内各地で「はつらつ教室」などを行ってきました。来々年4月からは、新たに「元気塾」として町内10カ所で開く予定です。

開催場所(予定)	定員
久礼老人憩の家	20人
久礼浦分高齢者コミュニティセンター	30人
長沢集会場	30人
大北集会場	20人
中大坂集会場	20人
鎌田老人集会所	30人
笹場集会場	15人
上ノ加江老人憩の家	45人
小矢井賀集会場	10人
矢井賀高齢者コミュニティセンター	20人

対象者：65歳以上の方

内容：保健婦、栄養士、理学療法士などの話を聞いたり、高齢者の健康づくり、生きがいづくりのために、話し合いをしたり、軽い運動、各会場ごと独自の催しを行います。

回数：月1回程度

費用：昼食代実費

\*「元気塾」に参加を希望される方は、下記の申し込み書に必要事項をご記入の上、

**12月24日**までに役場福祉保健課、上ノ加江支所、解放センターにお申し込み下さい。

\*詳しい内容・班分けなどについては、後日ご連絡します。

お問い合わせ 中土佐町役場福祉保健課 TEL 52-2211

## 「元気塾」申込書

住所	氏名	生年月日	電話番号	参加希望場所